

2020年5月14日  
タカラバイオ株式会社

各位

平素はお世話になっております。

本日 15 時に 2020 年 3 月期の決算を発表しました。

本日は、決算の他、以下の発表を行っております。

- ・タカラバイオグループ「長期経営構想 2025」および「中期経営計画2022」
- ・剰余金の配当
- ・米国子会社拠点整備のお知らせ

なお、決算および関連事項に関する、お問い合わせは、下記にて承ります。  
ご遠慮なくお問い合わせください。

お問合せ先  
タカラバイオ株式会社  
事業管理部  
電話:077-565-6970

以上

## タカラバイオ株式会社 2020年3月期決算発表(補足資料)

### 2020年3月期決算について

【決算短信 15 ページ】

- ・ 海外子会社は、1-12月決算のため、新型コロナウイルス感染症拡大の影響は受けていません。日本についても当期末(3月)までの影響は軽微です。
- ・ 売上高は、バイオ産業支援事業では、研究用試薬が堅調、受託サービスは再生医療等製品開発の広がりを受け好調に推移しました。遺伝子医療事業では、昨年に引き続き提携先からの対価料収入があり、ほぼ前期並みとなりました。一方で、前期に医食品バイオ事業を譲渡しており、減収の大きな要因となりました。
- ・ 売上高は減収となりましたが、売上構成の変化などにより原価率が改善した結果、売上総利益は増益となりました。販売費および一般管理費では、遺伝子医療事業の臨床開発費用が提携先企業へ移管されたことなどにより研究開発費が減少しました。これらの結果、営業利益は62億7,400万円となりました。
- ・ 営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は、いずれも過去最高益となりました。また、営業利益、経常利益は11期連続の増益を続けています。

### 2021年3月期業績予想について(新型コロナウイルス感染症拡大の影響)【決算短信 16 ページ】

- ・ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、現時点では、減収減益を予想しています。当社では新型コロナウイルス検出用のPCR製品を製造・販売しており、これらの売上は好調に推移しているものの、現時点では顧客の研究活動等のアクティビティ低下によるマイナスの影響が大きいと予想しています。業績予想にあたっては、国内外地域別に影響期間・影響度を推測しました。
- ・ 一方で、当社自らが行う将来の成長のための研究開発は積極的に行う方針としており、研究開発費は前期より24%増加する計画です。
- ・ 次期(2021年3月期)の業績予想は、主として新型コロナウイルス感染症拡大のダウンサイド・リスクを織り込んで作成したものであり、アップ・サイドの要素(後述のダイレクト PCR キットや DNA ワクチン開発・製造受託による売上増加)は織り込んでおりません。今後、業績予想を修正すべき状況となった場合は、速やかに情報を開示します。

### 新型コロナウイルス検査用のPCRキットについて

- ・ 新型コロナウイルスを、検体からウイルス RNA を精製する前処理工程を必要とせず、反応時間が1時間未満で、迅速、簡便に検査ができる PCR 検査用試薬(製品名: SARS-CoV-2 Direct Detection RT-qPCR Kit、)を、5月1日より新発売し、月産2万キット(200万反応)の製造・出荷体制を整え、PCR 検査体制の拡張、強化を支援しています。(4月30日リリース)
- ・ 現在、多方面より引き合いをいただき、出荷を行っています。

- ・ このPCRキットは、5月に急遽発売したため、次期(2021年3月期)の業績予想には織り込んでおりません。今後、業績予想を修正すべき状況となった場合は、速やかに情報を開示します。

#### DNA ワクチンの開発状況について

- ・ 大阪大学、アンジェス株式会社らのグループが進める新型コロナウイルスに対する予防用DNAワクチン開発に製造面で協力しています。(3月5日ニュースリリース)
- ・ 現在、弊社の再生医療等製品の製造設備を使用して前臨床試験用のワクチンを製造しています。
- ・ DNAワクチンの開発・製造受託は当社のCDMOサービスの売上となりますが、次期の業績予想には織り込んでおりません。今後、業績予想を修正すべき状況となった場合は、速やかに情報を開示します。

#### 「長期経営構想 2025」および「中期経営計画 2022」について(リリースをご参照ください)

- ・ 長期経営構想は2025年までの6年間、中期経営計画は2022年までの3年間の期間としています。
- ・ 「長期経営構想 2025」は2025年の当社が目指す姿を示したもので、「研究用試薬・理化学機器事業」と「CDMO 事業」を通じ、バイオ創薬基盤技術開発を進め、新モダリティ(治療法)を創出し続ける企業を目指す。としています。計画最終年度に、営業利益:100億円、ROE:8%以上を目指します。
- ・ 「中期経営計画 2022」は、「長期経営計画 2025」の実現に向けて、積極的に研究開発投資を行い、成長基盤の礎を構築するための前半3年間の計画です。計画最終年度に、営業利益:65億円、ROE6%以上を目標としています。
- ・ 計画の詳細は、本日発表しています、ニュースリリース、「タカラバイオグループ「長期経営構想 2025」および「中期経営計画 2022」を策定」をご覧ください。

以上